

令和7年度第2回  
札幌市地方独立行政法人評価委員会

会 議 録

日 時：2025年8月1日（金）午後3時開会  
場 所：札幌市立大学桑園キャンパス 管理実習棟2階 大会議室

## 1. 開 会

○事務局（児玉企画課長） ただいまから、令和7年度第2回札幌市地方独立行政法人評価委員会を開催いたします。

それでは、議事進行につきましては、細川委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 2. 議 事

○細川委員長 それでは、議事に入らせていただきます。

本委員会では、札幌市立大学からの報告及び委員会によるヒアリングを受けまして、追加で確認したい事項についてお伺いしたいと思います。

先ほど、我々から質問いたしました、皆様から札幌市立大学へさらに確認したい事項等はございませんか。

○安井委員 特にこれをもっと知りたいということではないのですが、見てみると、どうしても数字のことがばかり追うことになってしまうのですよね。例えば、私が担当していたところだと、指標番号22の札幌市の社会課題解決に資する研究とあって、大いに目標件数を超えているのですけれども、例えば、大学のホームページのここを見れば、件数ではなくて内容が分かるというような、リンクでもいいので、そういうものが書いてあると分かりやすいかなという気がします。

○細川委員長 補足させていただきますが、高等教育関連の仕事を北大でずっとやってきたのですが、日本全国の大学を見ると、国公立の大学というのは宣伝があまり上手ではないのです。私立の大学は結構上手に宣伝してしまっていて、今は、やはりホームページを使って宣伝することが有効かと思えます。

今のご意見にもありましたけれども、うまくいっていないことを公表する必要は全くないのですが、うまくいっている事業は、ホームページのどこかに掲載場所をつくって、それで、こんな具合にうまくいっていると宣伝すると。毎年、少しずつ数値のデータも出てきていますので、差し支えがなければそういう数字も一緒に載せて、札幌市立大学はこれぐらいやっているのだということを、外から調べてみたいと思うような方が簡単にアプローチできるような場所に情報を載せておくということは、大学の宣伝のための一つの手段だと思います。

それ以外にも、私立の大学でしたら、例えば、テレビ局とタイアップしたり、いろいろな手を打っております。特に、大きな私立大学ですと、いろいろな研究もされていますので、そういう成果をマスコミを通じて宣伝していますので、これについても、人員が必要であることは分かっているのですが、何とか上手に進めていただきたいと思えます。

ほかに、委員の皆さん、何かご意見はありませんか。

○高崎委員 私も、今回の評価をする上で、いろいろな言葉が出てきて、よく分からないものはまずホームページを検索するという流れを取ったのですけれども、載っていないことも結構あったので、やはり広報活動にもう少し力を入れられたほうがいいのかと思います。

あとは、私が先ほど質問した高校生をターゲットにした公開講座ですが、高校生もホームページも見ると思うのですけれども、多分、インスタやXなどのSNSを多用していると思うのです。札幌市立大学がアカウントを持っていることは確認したのですけれども、そこまで盛んに活動されてはいないのかなというところで、フォロワー数も限定的だったので、そこはこれからもう少し力を入れていったほうがいいのかと思っております。

○細川委員長 ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○細川委員長 それでは、まだ時間がございますので、皆様が各担当箇所の進捗状況を確認して思ったこと、あるいは、考えたことなど、何でも構いませんので、一言ずつお言葉をいただけますでしょうか。

まず、安酸委員、お願いします。

○安酸委員 さっき私が質問したところにも関連するのですが、看護だけではなくて、デザインとA I Tにも1名入っているし、全体で17名プラスにするということはものすごく大変なことだったと思うのですが、周りの私立大学から移ってこられたような感じだったのか

なども思うのです。

国公立は、定員や受験生などはあまり大変ではなくて、先生の数がこんなに減ることもあまり目にしたことがないのですが、本当に少なくてびっくりしました。今は、補充されたということで、そうすると、生え抜きで10年以上ずっといるような人が中核になってやっていると、ところに新しい人がいっぱい交ざってやるというと、いろいろな事業をやっていくときに、スムーズにいかないことが結構あるのです。看護は結構チームでやらなければいけないので、こういうものは出てこないですけども、数はそろったけれども、円滑にうまくするには、また時間がかかるのかなと心配しています。

アウトカムをすごくたくさん出されているので、やらなければいけない業務が結構いっぱいあるのです。デザイン学部と一緒にやるという試みがすごくユニークで面白いのですけれども、これは、新しい人が、そこにぱっと入って行って共同研究もやっていくということはなかなか難しいのではないかと推測しています。アウトカムをしっかりと出すということはもうされているので、大変だろうなど、これは別に評価する人が言わなくていいことかもしれませんが、すごく心配という感じがしました。ですから、本当に実際の中身、運用がうまく回っているのかなということが少し心配です。

ただ、こういう評価では数ですから、とりあえず、数として出せるところを出しておけば、私たち評価する人としてはオーケーですという評価にはなるのですけれども、回している方は大変だろうなど。でも、取りあえず、看護は実習などがすごく大変なので、数がそろっただけでもよかったなどは思っていました。

○細川委員長 高崎委員、お願いします。

○高崎委員 個別的な質問という感じではなくて、今回、この一覧を見ての感想です。

今回から評価をしないで状況を確認しながら進めるという年度に変わったと思うのですけれども、でも、結構たくさん土台をつくられているのかなというところで、結局、大学の事務負担はあまり変わっていなかったのではないかなという印象も持っています。

ちゃんと確認していないので恐縮ですが、以前より項目数が若干増えているのではないかなという気もしていて、どこまでを求めている年度の状況報告かというところで、もし負担感が強いというような意見があれば、来年以降は少しポイントを絞って、ここここだけなど、進捗状況のいいところは据置きにして、今の時点で達成状況がよくないところをフォローアップするような感じの評価にするなど、試行錯誤していてもいいのかなという感想を持っています。

○細川委員長 櫻井委員、お願いいたします。

○櫻井委員 私としましては、学術研究機関の最大の社会貢献というものは、やはり学術研究したことをしっかりと社会に実装するということだと思っております。それで言うと、どの程度この札幌市立大学で研究されている成果が社会に実装できているのかという指標は、この項目からは表れていないのかなという意見を持っております。

例えば、本来であれば、起業家の養成なども昨今の大学の状況であれば入っていてもおかしくないのかなと思いますので、起業家をはじめとしたスタートアップの養成など、社会実装的な側面も評価に入れていかないと、今後、大学間競争にはなかなか勝ち残っていけないのかなと思っております。

○細川委員長 社会への還元ですが、私が着任した最初の2年は、そういうプロジェクトがあって、それで地域の方と一緒に活動したり、地域に看護の知識を広めるなどという活動をされていたのですが、そのプロジェクトが終わったので、ここ2年はやられていません。それで、継続が望まれるのですが、こういうプロジェクトというのはどこから予算が出ていまして、予算がなくなると継続することが難しいというのが、多分、公立大学共通の悩みです。

中において、そういうプロジェクトの責任者になってよく分かったのですが、政府、文科省、札幌市は、そういうプロジェクトについて、何かの意図があってお金を出してくれるのですけれども、継続することは考えていないのです。継続したければ自分でやってくださいというのがあちら側にいる人たちの考えで、予算はなかなか出ないです。そういう困難さがあるって、もしそういう活動を続けたければ、通常、自分たちに与えている予算内でやらないといけない、

そして、もちろん人員も増やしてくれないという背景があります。外からいろいろ期待はするのですけれども、実際の大学側に立ってみると、予算と人の関係があってなかなかうまく動いていけないということが国公立大学の事情だと思います。

そして、予算はお役所と同じで単年度なのです。私立大学ですと自分のお金を持っていて、それを継続的に使っていくことができるのですけれども、予算が単年度ですから、そういう長い期間のプロジェクトを自分たちで維持するという事はなかなか難しいという側面があります。

大学側が答えるような話になりましたが、そういうことです。

最後に、安井委員からご意見をお願いいたします。

○安井委員 さっきの櫻井委員のお話からすると逆かもしれないですけども、札幌市の社会課題解決に資する研究と相当するかどうかということなのではないかと思ってウェブ上の資料を見ていたのですが、どうも受託研究みたいなものが多いような気がしました。別に受託研究が悪いわけではなくて、既にある社会課題に対する解決も役割だと思うのですけれども、私の認識が間違っていたら訂正していただきたいのですけれども、受託が多いなど思ったところなのです。

本来であれば、例えば、デザインを受託研究と言ってしまうと、世の中には大学ではないところでいろいろなデザイナーの方がいらっしゃるはずですよ。函館だと割とそういうことが問題になったりするのですが、大学の教員があまり市のデザインの仕事を請け負ったりすると、そういう仕事はというようなことになりかねないのです。

あえて言いますけれども、新しい価値をつくっていく、自由な研究を自発的にやっていけるような感じを見せてもらえると面白いかなという気がします。常に何かすぐに役に立つ研究や目の前のものを解決するものばかりにとらわれていると、やはり新しい知見やオリジナルなユニークな価値みたいなものを生み出しにくいのではないかと思います。僕はもともと会社でデザインをしていた人間だったので、大学はもう少しそういうところがあってもいいのかなと思っていたりします。

○細川委員長 自由な研究という観点ですと、例えば、科研費等の申請になると思うのですけれども、この表の指標番号84を見ますと、科研費の新規申請があつて、目標が90%ですが、41%になっております。

これは、私の任期の最初の2年でも目標が掲げられていて、ある程度の応募があつたという具合に記憶していますが、昨年度だけを見るとあまり数値はよくないですね。大学によっては、科研費の申請をするだけで学内の研究費を少しもらったりするような仕組みや制度があるところもありますので、科研費の応募を進めるような仕組みを導入していくことも一つの手かと思えます。つまり、科研費がその先生の評価の基準の一つになるような仕組みがあることが望ましいかと思えます。

○安井委員 はこだて未来大学も、学内研究費を取ったら、それに関して科研費への応募を出さないと、来年から出さないというような話もあつたりするのです。

科研費に限らず、外部資金や競争的資金の獲得というのは、あまりこちら側で頑張られてしまうとライバルが増えていくのですけれども、お互いに頑張っていければいいですね。

○細川委員長 最後に、私が何か意見を言うことになっているのですけれども、私の見た範囲では、質問にあつたように、目標よりも低い項目が何項目かあつたのですが、今日のお答えを聞いている限り、それぞれの理由があつて、多分、徐々に回復するのではないかという具合に感じました。

一つ目標をとて高く設定しているところがあつて、例えば、指標番号7の目標設定を100%にしてありますけれども、これは低くしてもいいのではないかと思います。目標が高いと、やはり達成することが大変ですので、この辺のところは自分で調節できますから、PCCの導入のところでも同じような事態だと思いますので、それほど高い目標にしなくても、それぞれの事情があればいいのではないかと思います。聞いておりました。

ほかにございませつか。

(「なし」と発言する者あり)

○細川委員長 最後に、昨年度と違ひまして、今年度から業務進捗共有会という形で、我々と

大学側で意見交換をする形になっています。

初めてのことでありますので、市でも試行錯誤をするつもりで考えていただいていると思います。この仕組み自体についてご意見がありましたらお伺いしたいと思います。改良すべき点がありましたら、来年度はその部分を変えたいと思いますが、この形式について何かご意見はありませんか。

私が担当していた最初の2年は、毎年、数値目標があって、それをパスしているかどうかを我々が見て、評価のレベルも考えて、その後で意見交換をするという仕組みでやっておりました。

さて、こういうやり方でいかがでしょうか。

一方で、昨年度までやっていたような、かなり細かい数値目標を多くのところで立てて、それを毎年調査するという事は非常に大変ですから、そういう意味では、大分よくなって、負担も従来に比べれば減っていますね。逆に、その負担が減った分だけ、我々のところに来るデータが少なくなって、それで、大学の状況が分かりづらいということはあることはあるのですが、でも、どこかでラインを引いてやらないと、先生方の研究、教育の負担になってもいけないということもありますので、私個人としてはこれぐらいの項目でいいのではないかと思います。よろしいでしょうか。

○安酸委員 例えば、外部評価のときは根拠資料が結構いっぱい来るではないですか。それを見て、これはこうなのだと照らし合わせるけれども、本当に数だけを見るので、その数をまず信じるということなのだけれども、その裏がどうなのかなということが分かりにくいのです。ただ、質問することができるので、これはどうなのでしょうかと聞けば、その資料を出してもらって話していただけるからいいのかなと思ったりしました。

最初に数だけで見たときに、80が85になりました、いいですねというように、それだけで見る感じになってしまうので、何かこれで評価したということになるのかなと、若干思いながら見ておりました。

しかし、私は書く側になることも多いのですが、7年に1回、根拠資料を全部そろえて、評価も受けるではないですか。あれはすごく大変なので、何かそこを考えると、やはり省けるところは省くということでもいいのかなという気はしております。

○細川委員長 ほかによろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○細川委員長 来年も大体このような感じでいいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○細川委員長 それでは、来年もほぼ同じような形で実施するという事で進めていただければと思います。

### 3. 質疑、意見交換

○細川委員長 次に、質疑、意見交換ですが、何かございませんか。

それでは、私からですが、評価委員に対して、もう少し親切であってもいいかなと思えました。つまり、もう少し資料があってもいいかなと。大学があるので、まとめるなど、非常に負担になるようなことはもちろん要求しないのですけれども、ぱっと見たときに、これは何のことかがすぐに分かるように、例えば、私は専門家ではないので、PCCなど、ああいうアルファベットの頭文字だけ出されても分からない、調べないといけないということになります。調べられるのですけれども、やはりこの評価委員会にいる人たち全てが看護やデザインの専門家ではないし、看護の専門家の方でもデザインの専門ではないので、ある程度、専門外の人にも分かりやすいような形の報告書が望ましいです。特に、専門用語や新しい活動の名前、研究の名前などが出てきたら、それについての説明があるほうが望ましいです。

それぐらいはお願いしてもいいかなと思うのですけれども、よろしいでしょうか。

ほかにご意見はありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

### 4. 事務局からの連絡

○細川委員長 それでは、本日本日予定されておりました議事は、すべて終了いたしました。

最後に、事務局から連絡事項があればお願いいたします。

○事務局（児玉企画課長） 皆さま、どうもありがとうございます。

昨今、マスコミなどでも大学運営というのは国公立であっても非常に厳しいとよく伺いますので、先ほどもお話がありましたけれども、広報の部分や、研究開発者の外部予算の獲得といったところについて、大学に伝えたいと思っています。

それと、来年度の進め方ですけれども、高崎委員から、事務負担があまり変わらない、逆に増えているのではないかという話もありましたので、ポイントを絞るところも考えていきたいと思ひますし、一方では、ポイントを絞るのであれば、出されている数字について、その根拠や丁寧な説明などを十分にやっておらうと考えております。

本日は、誠にありがとうございました。

それでは、最後になるのですけれども、本年度で任期が満了になられる委員が2名いらっしゃいます。ぜひ一言ご挨拶をいただきたいと思ひております。

まずは、細川委員長から一言いただいてよろしいでしょうか。

○細川委員長 4年間務めてまいりまして、皆さん、いろいろお仕事をお願いして、どうもありがとうございました。

高等教育、大学の教育の中でも、FDやIR、大学の教育力の分析が専門でして、大学の運営自体にはあまり深く関わったことがないのですが、ここでは全般についていろいろ見せていただきました。

先ほどお話ししたしましたが、市立大学の評価委員会に招かれただけでも光栄に思っております。

まだ任期がある委員の皆様には、後をよろしくお願いいたします。

4年間、どうもありがとうございました。

○事務局（児玉企画課長） 続きまして、高崎委員からも一言お願いいたします。

○高崎委員 私は、6年間任期を務めさせていただきました。スタートが2020年なので、ちょうど新型コロナウイルスが始まった年で、全く会議が開催されず、全部オンラインになって、翌年も確かオンラインだったかなと思ひます。その次の年ぐらいからキャンパスを見に行くツアーを組んでくださって、実際に研究しているところを目の当たりにして、そこから評価ができるようになったので、正直、最初の2年は、何を評価していいのかも分からずというところで、試行錯誤しながら進めておりました。

私は、看護や芸術には全然縁のない生活をずっとしておりまして、この評価委員でいろいろ教えていただくたびに新しい用語が出てきて、それを調べて、追いついてという感じで、まだ全然追いついていないのですけれども、それを繰り返しておりました。

私もずっと札幌に住んでおりまして、子どもたちも札幌で教育を受けています。今、中学生と小学生ですが、これから大学に進学するときの進学先の一つとして、こんなに素晴らしい大学があるのだよということは伝えていきたいと思ひます。ただ、やはり自分が大学生だったときと今の大学が置かれている環境は全然違っていて、もう自分の常識はおいておき、いろいろ見たほうがいいのだなということは、日々すごく感じているところです。

まとまりのない話になってしまったのですけれども、大学の先生方や事務局の方がすごく誠実に対応されていて、どんどんいろいろといいものが生まれてくるのかなと思ひておりますので、引き続き、頑張っただけければと思ひております。

また、事務局の方々も、6年間いろいろとご対応いただきまして、ありがとうございました。私は、1年間ずっとオンラインで参加したような年もあったのですけれども、私の事情を鑑みて、いろいろ調整していただきまして、ありがとうございました。

無事に任期を務めることができました、ほっとしております。ありがとうございました。

○事務局（児玉企画課長） 細川委員長と高崎委員には、市民としてご意見がありましたら、ぜひお伝えいただけると幸いです。

本当に長い間、ありがとうございました。お疲れさまでございました。

それでは、本日の会議につきましてもこれで終了になります。

長時間にわたり、ご議論いただきまして、誠にありがとうございました。

5. 閉 会

○細川委員長 それでは、以上で、本日の評価委員会を終了いたします。  
長時間ご参加いただきまして、ありがとうございました。

以 上